



信頼と革新の クルマづくり

富士重工業株式会社
代表取締役社長

吉永 泰之

1. はじめに

スバルは昨年、2015年までの5年間にわたる、中期経営計画「Motion-V」を発表いたしました。この「Motion-V」では、スバルがもたらす「安心と愉しさ」の価値をお客様に提供し、その個性を大切にしながら「存在感と魅力ある企業」を目指すことに取り組んでいます。

「Motion-V」の中で、スバルはブランドステートメントである“Confidence in Motion”を行動指針としても掲げました。「Confidence」とは、お客様と一緒に築いてきた「信頼」です。スバルがお客様との間で培ってきた「信頼」を大切にしながら、「in Motion」には時代の変化に立ち止まらず「革新し続けて行く」という意味を込めています。

2. スバルの新しい商品群

スバルは、“Confidence in Motion”の考えのもと、お客様に「安心」と「愉しさ」を提供するクルマづくりを続けています。

その第一弾となったのが、昨年11月に国内発表を行いました「インプレッサ」です。このインプレッサは、「NEW VALUE CLASS」をコンセプトに、「軽快で気持ちの良い走り」と「燃費のよさを実感できる環境性能」を持ち、「スタイリッシュな外観と質感の高い内装」をつくりこみました。

そして第二弾となったのが、今年2月に発表を行いました「SUBARU BRZ」です。このクルマは、トヨタ自動車との共同開発車であり、両者の技術・開発ノウハウを活かし、開発を行いました。「SUBARU BRZ」



SUBARU BRZ

は、スバルのBOXER(水平対向)エンジンを極限まで低く搭載したFRレイアウトとし、「Handling Delight～新しい次元の運転する楽しさ」をコンセプトに、誰もがクルマを操る楽しさと悦びを感じることのできるクルマとして開発をしました。おかげさまで「インプレッサ」「SUBARU BRZ」とも市場から高い評価をいただき、好調な販売となっています。

その他にも、5月にはレガシィに、「走り」と「環境」を高い次元で両立した直噴ターボを搭載した「2.0GT DIT」を発表、また9月にはクロスオーバーSUV「インプレッサ XV」を発売しました。「インプレッサ XV」は、SUVらしい高い最低地上高と力強く、かつスタイリッシュなデザインを持った新しいスバルのクロスオーバーSUVです。

3. スバルのコア技術

スバルは、BOXER エンジンとAWD(全輪駆動)を組み合わせたシンメトリカルAWD (S-AWD) という独自のレイアウトを持っており、これは、軽量・コンパクト・低重心というメリットを持つBOXERエンジンを縦置きとし、AWD化することにより、左右対称(=シンメトリカル)でバランスの良いレイアウトとなり、優れた走行安定性を実現しています。このレイアウトは今年40周年を迎えたスバルAWDの当初より採用しており、その40年の進化、そして2010年に新世代



シンメトリカルAWD



インプレッサ XV

となったBOXERエンジンの進化とあわせ、スバルのコア技術となっております。

またスバルは、この走行安定性の高さに加え安全性においても高い評価をいただいております。その代表的な技術が、アイサイトです。この技術は20年にわたり開発を続けてきた、ステレオカメラによる認識技術をベースに車両制御を組み合わせ、万が一の際の事故を回避、あるいは被害を軽減する運転支援システムです。2010年に「ぶつからないクルマ？」をCFで訴求した「アイサイト(ver. 2)」の発表以降高い評価をいただき、レガシィでは約80%ものお客様に選ばれ、また搭載車種もインプレッサ、エクシーガと拡大してきております。この「BOXER」「AWD」「アイサイト」といった技術をコアに、お客様が「安心」して運転ができ、また「愉しく」運転できるクルマを、スバルはお客様に提供してまいります。

最後に

スバルは、“Confidence in Motion”、お客様との信頼をDNAに革新を続け、「存在感と魅力ある企業」に向けて取り組んでまいります。これからも、スバルへのご理解・ご協力をお願いいたします。



アイサイト (ver.2)